

適期な立茎と、立茎前後の管理徹底により茎枯病の予防に努め、翌春の収量確保を図りましょう。

1. 立茎（収穫打切）開始の目安

◎1日の収量が最高収穫時（ピーク時）の30%程度まで低下したとき。

◎株令別による収穫日数（下表）に達したとき。いずれの場合も最高収穫日数55日以内。

◎M級や細茎の比率が高くなってきた場合や穂先の開きが目立ってきた場合。

※夏秋どりを行う場合は、株の消耗を抑えるため10～30日
早めに収穫を打切る。

※昨年茎枯病等により枯れ込みが早かったほ場では早めに
打ち切ると共に、管理を徹底し茎枯れ病対策をしましょう。

※立枯性症状の発生が見られるほ場では早めに打ち切るととも
に、圃場の排水性を見直しましょう。

※露地栽培では、茎枯れ病の感染リスクを下げるため晴天が続
く時期に立茎しましょう。

株 令 別	収穫日数	備 考
3年株(収穫初年度)	10～15日	前年の草勢により日数を加減
4年株(収穫2年度)	20～25日	
5年株以降(成園)	30～55日	
*定植後2年目の圃場は、春は原則として収穫しない。 *養成株の場合(2年目)は、10～15日を目安とする。		

2. 立茎方法

◎全ての作型において、立茎は一斉に実施する「一斉立茎」を基本とする。

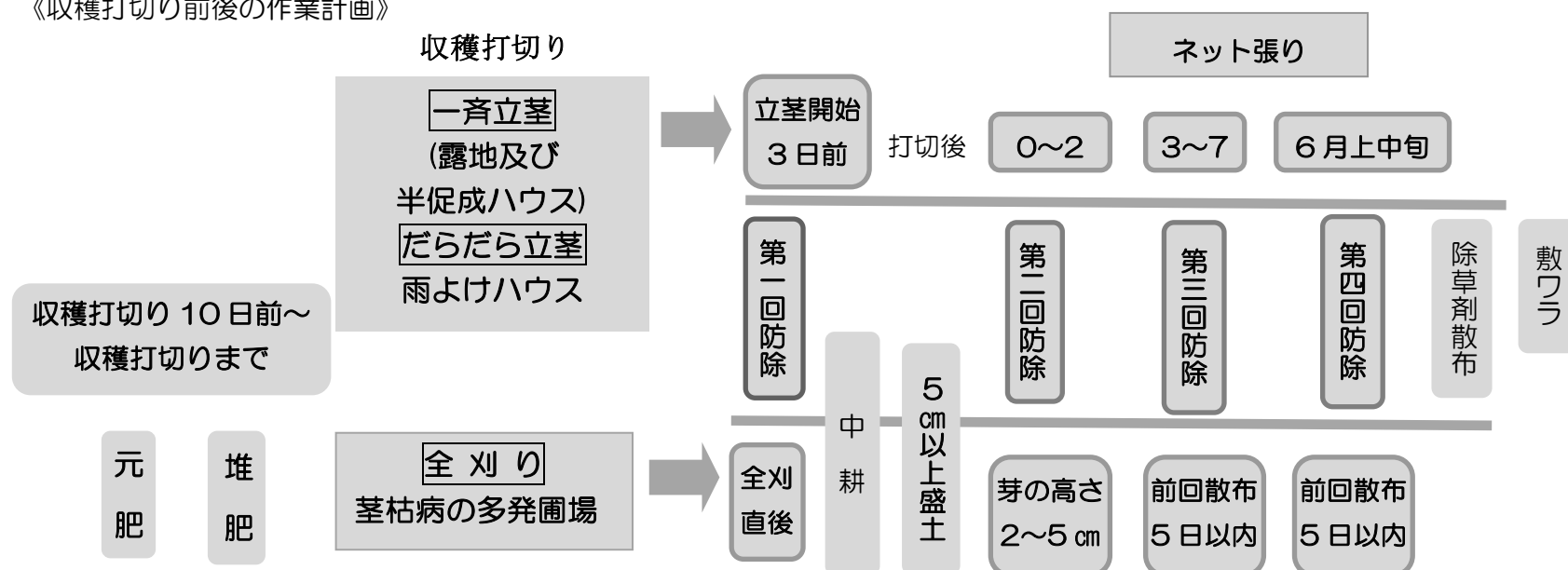
◎昨年、茎枯病による被害が大きかった圃場は、全刈りしてから立茎する「全刈り立茎」を実施。

◎雨よけ栽培に限り、時間をかけ理想的な茎だけを立茎させる「だらだら立茎」も可能。

「だらだら立茎」は茎枯れ病感染リスクを抑えられる「雨よけ栽培」以外では実施しない。

3. 収穫打切り前後の管理とその手順 ～来年の収量を左右する最も重要な作業～

《収穫打切り前後の作業計画》



(1) 収穫打切り 10 日前～収穫打切りまで

- ①元肥の施用：「野菜一番」を 10a 当りハウス、露地ともに 80kg（4 袋）を施用して下さい。
- ②石灰類の施用：土壌分析結果に基づいて施肥量を決めて下さい。アスパラガスの生育に適する土壌は PH5.8～6.1 です。基準では「炭苦土(粒) タイニー」を 10a 当り 40～60kg(2～3 袋)を施用して下さい。
- ③有機質肥料の施用：地力向上のため「コーンコブ入り牛堆肥」等を 10a 当り 2t、または「有機ハツラツ A (I-Ⅱ)」を 10a 当り 200kg（10 袋）を投入し土壌混和して下さい。

(2) 収穫打切り：昨年茎枯病が多発したほ場では、若茎の大小を問わず晴天日にできる限り地際ぎりぎりに全刈りする。

なお、露地でも茎枯病の発生が少なかった場合は、ハウスに準じ全刈りせず、そのまま一斉に立茎させる。

ハウスの場合は、弱小茎・奇形茎等の除去のみとし同時に雑草や異物を取り除き圃地をきれいにする。また、打切後すぐビニールをはがさず展葉するまで雨よけをする。（打切後 1 か月被覆）

(3) 中耕：特に有機質の少ないほ場等ではうね間を中耕し、有機質と土壌混和する。

『亜リン酸粒状 1 号』を土寄せ(盛り土)時に 10a 当たり 10～20Kg 施用すると、根量の増加、生育促進・土壌病害の抑制につながる。

(4) 盛り土：目的は ①倒伏防止 ②雑草防止 ③うね間へ有機質の投入 ④根株の高温防止 ⑤茎枯病の予防強化

等です。中耕が終わったら株元へ 5cm 以上の盛土をします。特に茎枯病の発生を抑える上で重要な管理作業となります。

(5) 雑草防除

使用時期	処理法	薬剤名及び 10アール当り使用量	摘 要
収穫打切り後 (両剤とも収穫 中は使用できま せん。)	全面散布	センコル水和剤：150 g	・水 100 ㍓に溶いて土壌水分が中庸な時に散布する。
		トレファノサイド乳剤：200～300ml	・雑草がすでに生えている場合は、水 100～150 ㍓当りザク サ液剤 300～500ml またはプリグロックスL を 1000ml の割合で加用。展着剤不要、但し畦間のみの散布。アスパラ にかけない。
雑草生育期	畦間処理	水 100～150 ㍓にザクサ液剤 300～ 500ml または、スギナに対し水 25～50 ㍓に ラウト アップ マックスロード またはタッチ ウィ IQ、 1500～2000ml	・畦間のみの散布とし、アスパラガスには絶対かけないこと ・ラウト アップ マックスロード ・タッチ ウィ IQ は収穫終了後の使用とする。

(6) 病害虫防除：病害虫防除は他の管理作業よりも優先。茎枯病は病斑が見えてからでは手遅れとなります。
収穫打切り直後の防除が重要ですので作業計画を立て必ず実施してください。(最初の4回の防除が大変重要です)

【ハウス作型の場合】※全刈りする場合、第1回目は全刈り直後に実施する。

散布時期		薬剤名	10a 当り 散布量	薬剤調合 (水 100 ㍓当り)
第 1 回目	立茎開始 3 日前	アミスター20 アブガル 2,000 倍液を散布する。 (収穫前日)	200 ㍓	水 ：100 ㍓ アミスター 20 アブガル：50 ml ※展着剤は入れない
第2回目	第 1 回散布後 5 日以内	ベンレート水和剤 2,000 倍液を散布する	200 ㍓	水 ：100 ㍓ 展着剤 (ハテパワ-)：10ml ベンレート水和剤 ：50g
第3回目	第 2 回散布後 5 日以内	ダコニール 1000 1,000 倍液を散布する	200 ㍓	水 ：100 ㍓ 展着剤 (ハテパワ-)：10ml ダコニール 1000：100ml
第4回目	5月下旬	モスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍液 ベンレート水和剤 2000 倍液 を散布する	200 ㍓	水 ：100 ㍓ 展着剤 (ハテパワ-)：10 ml モスピラン顆粒水溶剤：25 g ベンレート水和剤 ：50 g
第5回目	6 月上中旬	カスケード乳剤 4,000 倍液 コサイド 3000 2,000 倍液散布する。	300 ㍓	水 ：100 ㍓ 展着剤 (ハテパワ-)：10 ml カスケード 乳剤：25 ml コサイド 3000 ：50 g

【露地作型の場合】※全刈りする場合、第1回目は全刈り直後に実施する

散布時期		薬剤名	10a 当り 散布量	薬剤調合 (水 100 ㍓当り)
第 1 回目	立茎開始 3 日前	アミスター20 アブガル 2,000 倍液を散布する。 (収穫前日)	200 ㍓	水 ：100 ㍓ アミスター 20 アブガル：50 ml ※展着剤は入れない
第2回目	第 1 回散布後 5 日以内	ベンレート水和剤 2,000 倍液を散布する	200 ㍓	水 ：100 ㍓ 展着剤 (ハテパワ-)：10ml ベンレート水和剤 ：50g
第3回目	第 2 回散布後 5 日以内	ダコニール 1000 1,000 倍液を散布する	200 ㍓	水 ：100 ㍓ 展着剤 (ハテパワ-)：10ml ダコニール 1000：100m
第4回目	第 3 回散布後 5 日以内	モスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍液 ベンレート水和剤 2000 倍液 を散布する	200 ㍓	水 ：100 ㍓ 展着剤 (ハテパワ-)：10 ml モスピラン顆粒水溶剤：25 g ベンレート水和剤 ：50 g

* 春収穫期間中、アブラムシ等の発生が見られる場合はモスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍またはアディオフロアブル 1500 倍液を散布。

* コアオカスミカメの発生が多い場合は、ダントツ水溶剤 2000 倍、コルト顆粒水和剤 4000 倍、ウララ DF2000 倍のいずれかを散布する。

* 全刈りは、直後に第 1 回目を畝全体に散布。盛り土は薬液が乾いてから 5cm 以上盛る。2 回目は芽の高さが 2～5cm 程度のときその後 5 日以内に 3 回目の薬剤を丁寧に散布する。

茎枯病の防除第 1～3 回目は土壌中心にたっぷり散布しましょう。